

contents

特集 離れて暮らす親の介護を考える

インタビュー NPO 法人パオッコ 理事長 太田差恵子さん ..... 2p

Bouquet Information 講座・イベントの報告・募集・お知らせ ..... 6p

TOPICS 中央区男女共同参画 リーダー研修 in 富岡製糸場 ..... 8p

女性センター「ブーケ21」へ来てみませんか? ..... 8p

ブ  
ー  
ケ



No. 75  
2014.12

# 離れて暮らす親の介護を考える

都心に住み働く私たちにとって、遠く離れて住む老親の健康状態や暮らしは気がかりなものです。介護が必要になったときにあわてることなく、自分の仕事や生活を大切にしながら親を見守り、介護していくにはどうしたらよいのでしょうか。

特集では、20年にわたり遠距離介護をテーマに活動を続けているNPO法人パオッコの理事長 太田差恵子さんに、離れて暮らす親の介護について介護が始まる前からできる準備や介護を乗り切るポイントなどを伺いました。

## 介護の担い手は性別、年齢を問わない

遠距離介護というと、昔は新幹線や飛行機に乗って行くようなかなり遠方に通っているケースを言っていました。最近では都内と近郊など、距離的には遠くなくても、時間がかかったり、仕事でなかなか親に会えないなど、「離れて暮らす親の介護」という捉え方をする人が多くなっています。

介護をする人は20年前は専業主婦の方がほとんどでしたが、いまは仕事をする女性も多くなっていますし、きょうだいの数も減って

いるので、介護の担い手に男女の別はありません。

親が長寿になってきているため介護をする方の年代も高くなっていますが、一方で若いときに親が倒れるケースや若年性認知症などもあり、平均的には40代後半から60代前半までの介護者が多いように感じます。また、最近の傾向としては孫世代で介護をしている人が増えていきます。私もNPO法人が運営するサロンにも、親が祖父母の遠距離介護をしているが、母親も働いているために、自分でできることはないかと情報収集に来る方がいます。20代から30代前半

で、これも男女ともにいます。

調査によれば、親が介護を受けたい場所は、男女ともに「自宅です。介護してほしい」が最も多くなっています（図表1）。離れて暮らす子どもたちにはできることは何か、事前の準備や介護のポイントなどをお話します。

## 親との「コミュニケーションを増やす

多くの子どもは親に何かあったときは世話をするといいですが、遠く離れている親の変化に気づくのは難しいことです。子どものほうは何かあれば親は自分に連絡し

てくると信じていますが、最近では異変があっても伝えてこない親が多くなっています。極端な例ですと癌になっても子どもに言わないケースがあります。親にすれば、子どもに言っても治るわけではないし、子どもに仕事を休ませるわけにもいかない、迷惑をかけたくないという思いが強いようです。

別居している親子の場合、日本の親は諸外国に比べて、子どもに会ったり電話で連絡を取り合う頻度が低くなっています（図表2）。

普段から連絡を取り合っておけば、親も何かあったときに言いやすいでしょう。盆暮れに帰省するだけでなく、電話など普段のコミュニケーションを増やすことです。

## 親の言動をメモに残す

親と電話をしているときに親の様子がいづれと違うなということがあるかもしれません。そうしたちょっとした気づきをメモに書き留めておくことはとても大事です。時系列に記録することで親の生活状態や健康状態の変化を知る手がかりになります。通常、いくつかの気づきの延長線上に支援や介護が発生します。経過が分かれば受診のときに参考になることもあり



# 太田差恵子さん

NPO 法人パオッコ 理事長

太田差恵子さん (おた・さえこ)

NPO 法人パオッコ 理事長。介護・暮らしジャーナリスト。AFP (日本ファイナンシャル・プランナーズ協会会員)。1996年親世代と離れて暮らす子世代の情報交換の場として「離れて暮らす親のケアを考える会パオッコ」を立ち上げ、2005年5月にNPO 法人とする。新聞・雑誌などでのコラムおよび自治体等での講演実績も多数ある。著書に「70歳すぎた親をささえる72の方法」(かんき出版)、「老親介護とお金」(アスキー新書)、「遠距離介護」(岩波ブックレット) などがある。  
NPO 法人パオッコ <http://paokko.org/>

ます。親の老いが気になったときからコミュニケーションを重ねて、見守ることで「3p」親の言動、気づきメモ」参照。

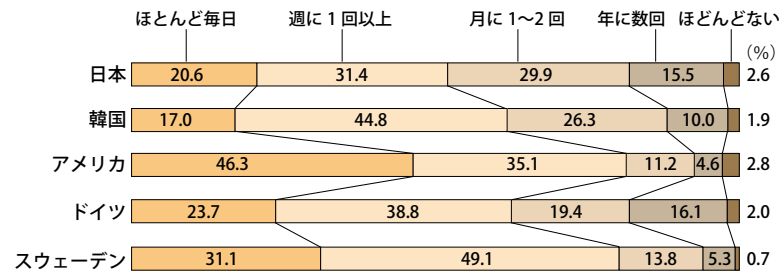
**介護が始まる前に親の考えを知る**

多くの子どもは親の老後に対する考えや蓄えのことなどを知りませんが、介護が始まる前から親の意向などを知っておくことはとても大切です(5p「親の希望を知っていますか?」参照)。面接のよう

に構えず、日常の会話から知り得た内容をメモするとよいでしょう。中でも、「住みたい場所」は大きな問題です。都内で暮らしている方から「親を呼び寄せるタイムミングはいつか」と聞かれることがあります。親の意向を知らないという方がとても多いのに驚きます。親のことを大切に思うあまり、一緒に暮らさなければいけないと思うのですが、肝心の親の意志を見落としがちです。親の考えを聞いておくことが大切です。

図表2 別居している子どもとの接触頻度

別居している子どもとどのくらいの頻度で会ったり、電話等で連絡を取っているかをたずねたところ、日本は、諸外国に比べて、子どもと接触する頻度が低くなっています。



資料:「第7回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」(内閣府 平成22年度)

## 親の言動、気づきメモ

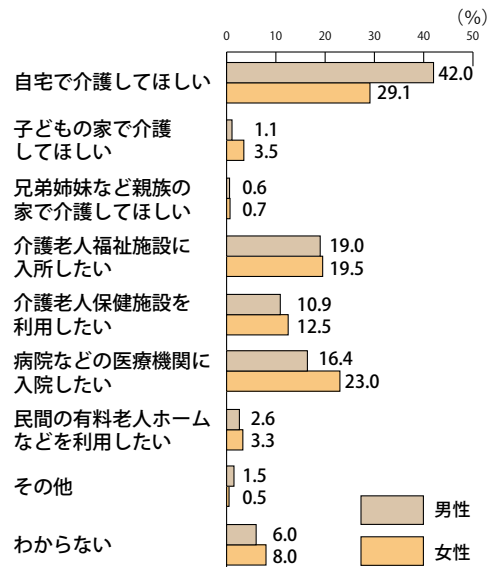
「いつ、何があったか」、時系列の記録は親の変化を知る手がかりになります。

○年○月○日	ちょっとした階段で転んだ
○年○月○日	電話をしてきてさびしいと泣いた
○年○月○日	「ごみ出しの日をまちがえる」とおとなりさんより電話あり
年 月 日	
年 月 日	
年 月 日	

資料:「聞き書きからスタート あなたの遠距離介護ノート」  
NPO 法人パオッコ～離れて暮らす親の介護を考える会～編集

図表1 介護を受けたい場所

介護を受けたい場所は、男女ともに「自宅で介護してほしい」が最も多くなっています。(設問は、「もし仮に、あなたの身体が虚弱になって、日常生活を送る上で、排泄等の介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいですか。」)



資料:「高齢者の健康に関する意識調査」(内閣府 平成24年度)

## 介護費用は

いくらかかるかではなく、「いくらかけるか」

親の介護費用は親にお金があればそれを使えばいいと思いますが、親の蓄えが分らないといざというときに困ることになります。親のお金が足りないときは、きょうだいとも相談しながら支援しなければいけないことも出てくるでしょう。そのためにも親がどれくらいお金をもっているか確認しておくことです。

介護のお金はいくらかかるかではなく、「いくらかけるか」がポイントです。施設に入るにしても公的な施設と民間の施設では金額が違います。予算の中でやらざるを得ないことです。どう使っていくかという視点が大事です。

遠距離介護の場合、交通費がかかりますが、もし親が出してくれるのなら出してもらえばいいでしょう。それで1回でも多く帰れたら親も喜びますし、よいのではないかと思えます。

親に蓄えや介護費用などについて聞けるのは、普段からコミュニケーションができていればこそかもしれません。

## 親の地域に

支援のネットワークをつくり、コーディネートする

介護は家族だけでするものと思いがちですが、手助けする人はたくさんいます。専門職では、行政、社会福祉協議会、かかりつけ医、ケアマネジャー、ヘルパー、民生委員などがいますし、一方で親しい友人、隣人という方々もいます。そうしたいろいろな支援をネットワークして、必要ときに必要な支援が得られるようコーディネートをしていくことが離れて暮らしながらする介護なのです。同居している人にとっての介護とは入浴・排泄・食事の介助ですが、それができないのが遠距離介護です。で、サービスや支援をどうコーディネートしていくか、親の地域とどうつながっていくかということが介護になります。夜、親が電話に出ないときも自分が駆けつけられるわけではないので、近所の親戚や隣人、サービスなどいろいろな人を頼るしかないのです。そのときのために、人間関係を築かなければなりません。お隣の人も帰省の度に挨拶をするなど、普段から付き合いをすることです。

### 遠距離介護を乗り切る心得11カ条

1. 三步早めにスタートし、介護予防に重点を置く
2. 便りのないのは元気な証拠、とは限らない
3. ふだんの親の生活パターンを知っておく
4. 親の暮らす地域の各種サービスの情報収集は子どもの役目
5. ケアマネジャーや医師には積極的にコンタクト
6. 親の親友、近隣の電話番号を聞いておく
7. 育った時代背景が異なる親に、子どもの価値観を押しつけない
8. 考えるだけでは進展なし。実行することが重要
9. 兄弟姉妹、配偶者を味方につける努力を
10. 世間体より親と子の笑顔が大切
11. 無理は禁物。通う子どもの心と体の健康も大事

## きょうだい、家族との コミュニケーションも大事

きょうだいがいる場合は、きょうだいの中で司令塔となるリーダーを決めておくことが大切です。多くは長男長女や親の近くにいる子どもがリーダーになります。親自身が親の世話は長男長女がすべきだと思っているケースもあります。

きょうだいのだれもが同じように親の面倒を見られるわけではありませぬ。経済状況も違うでしょうし、家までの距離の違いもあります。役割分担を決めたり、ネットワークをコーディネートするなど司令塔の存在が必要です。また、介護するときに配偶者の意見に左右されることもありま

## 遠距離介護は情報収集から

遠距離介護はいろいろな支援やサービスを使うことで成り立ちますが、サービスや情報がよく分からないということに悩んでいるケースがあります。「地域包括支援センター」を知ら

ず。妻が介護者の場合、夫の中には「男きょうだいに任せておけばいい」と言う人もいるでしょうし、妻自身も、夫のお金を実家の介護に使うことに抵抗を感じたり、交通費が高額になれば、遠慮も出てくるでしょう。一方で夫が介護者の場合、家計は妻に任せているので、妻に言えない夫もいます。介護をめぐって家庭の中のコミュニケーションをとり、家族の理解を得ることが大切です。

チェックしてみよう

親の希望を知っていますか？

- ★親は誰の介護を受けたいと思っている？
- 配偶者
- あなた
- あなたの配偶者
- あなたのきょうだい、もしくはその配偶者
- 親戚
- ホームヘルパーなど専門職
- ★親は誰の介護は受けたくないと思っている？
- 配偶者
- あなた
- あなたの配偶者
- あなたのきょうだい、もしくはその配偶者
- 親戚
- ホームヘルパーなど専門職
- ★親が願う住みたい場所
- 現在暮らしている自宅
- あなたの自宅
- あなたの自宅の近所
- あなたのきょうだいの自宅、近所
- 安心、便利なところへの住み替え
- 高齢者施設・高齢者住宅
- ★介護資金はどこから？ 誰から？
- 親本人、もしくは配偶者の年金、蓄えから
- 親本人の自宅を処分して捻出
- あなたの援助
- あなたのきょうだいの援助
- その他 ( )

資料：「聞き書きからスタート あなたの遠距離介護ノート」  
NPO法人パオック～離れて暮らす親の介護を考える会～編集

ない方も多くいますが、高齢者の地域ケアの拠点として各地域に設置されています。高齢者が健康に不安を抱えたときに相談に応じてくれますので、介護が始まる前から知っておくと安心です。帰省のときに親の地域の「地域包括支援センター」に顔を出して、親の状態を伝えておけば、何かあったときに様子を見てもえたり、介護保険制度の申請についても教えてもらえます。親にも「地域包括支援センター」があること、困ったことがあれば相談に応じてくれることを伝えておくといいでしょう。

また、高齢者向けの冊子や案内を見てみることも大事です。中央

区にもいろいろな相談窓口やサービスがあると思いますが、親の住む自治体のものを取り寄せてみるというでしょう。いろいろなところに問い合わせたり、インターネットを使って調べて、親元に帰ったときに実際に向うなどとして収集していくといいでしょう。情報収集は遠距離介護を乗り切るために重要なポイントです。

遠距離介護は  
気持ちの切り替えができる

遠距離介護のメリットは気持ちの切り替えができるということですね。帰省したときに親との関係がぎくしゃくしたとしても、戻ってくれば気持ちをリセットできます。長く続けていくためには、こちらにいるときは自分の生活を考え、親元に行ったときは親のことを考えるなど気持ちの切り替えをすることが大事です。気持ちの切り替えができれば仕事の継続もやりやすいと思います。

仕事や自分が大切にしているものを捨てずに両立を図る

遠距離介護は親の意向を聞いた上で、遠距離のままサポートするのか、同居するのか、施設に入るのかなど、将来をイメージしながら経過も大切にして、親も自分も笑顔になるにはどうすればよいかわかると思います。

親の世話も自分の仕事も何もかもうまくいくことはないもので、その中で折り合いをつけながらやっていくことです。仕事や自分の生活、自分が大切にしていることを捨てずに、介護との両立を図ってください。介護のために仕事をやめますが、自分自身の生活設計も忘れてはなりません。そして一人で抱え込まないことです。離れて介護している人はすでにたくさんいますので、身近にいる経験者に話を聞くなどしてしっかりと準備をしておけば、必ず道は開けるものです。

中央区のパフレット



中央区が発行しているパフレットです。サービスを知る手がかりになります。親が暮らす地域のパンフレットを入手しましょう。

**報告**  
「残業を減らして  
成果を上げるチーム術」  
セミナー

9月3日(水)、株式会社ワーク・ライフバランス代表取締役社長小室淑恵さんを講師にお迎えし、ワーク・ライフ・バランスセミナーが開催されました。

**長時間働いても仕事の成果が低い**

講演は、日本人は、諸外国に比べて「仕事ばかり」の生活を送っているにもかかわらず、仕事の成果が低いという指摘から始まりました。この状況を脱し短い労働時間で高い仕事の成果をあげるには、まず会社が仕事の成果を「期間あたりの生産性」でなく「時間あたりの生産性」で評価するようにマネジメントの意識を変えていく必要があるということです。評価が変わることで、働く側は所定労働時間内に集中して働き、残業時間を減らして「家庭や私生活」の時間を充実させれば、スキルアップや知識の習得、社外の人との交流から生まれるアイデアや人脈などのインプットが増え、仕事の質もあがるといふことでした。



小室淑恵さん



**ワーク・ライフ・バランスは社員も企業も成長できる戦略**

日本では、出産・育児を機に仕事をやめる女性が7割近くに達しており、諸外国に比べて合計特殊出生率も低く、労働力率も低い、すなわち「産むことも、働くこともできていない」状態にあるそうです。現在、国では成長戦略の核として女性の活用が進められていますが、労働力の確保と国内総生産の拡大に向けても、ワーク・ライフ・バランスで男女がともに育児・家事を担いながら働くことが期待されているということです。

その一方で、企業がワーク・ライフ・バランスを取り入れるときは、育児施策・介護施策として位置付けるのではなく、全社員を対象にすることが大事であり、職場全体やチーム全員の残業を減らし、全員のモチベーションをあげることがポイントだそうです。

また、企業が多種多様なニーズにこたえるためには、一部の人が長時間労働をしておこなっているのではなく、多様な価値観をもったさまざまな人がワーク・ライフ・バランスで個人の生活を充実させながら働くことで、新たなアイデアから多様な商品やサービスを生み出すことができるということです。

ワーク・ライフ・バランスは社員が成長できる仕組みであると同時に、企業の成長戦略でもあるということです。  
(文責ブーケ21)

**報告**  
「競争力向上につながる  
人事戦略」

10月8日(水)、株式会社カイラボ代表取締役の井上洋市朗さんを講師にお迎えして、ワーク・ライフ・バランスセミナーが開催されました。

前半は人材の定着支援についてお話いただきました。学生と企業の認識にズレがあり、例えば「ブラック企業になると思っ目安の残業時間」という質問に、学生は40〜60時間、人事は100〜120時間と回答した人が最も多くなっていることがわかりました。人材戦略の取り組み方については、事例を紹介しながらご説明いただきました。

後半は採用についてお話されました。学生が企業に求めるものは「社会貢献」「自己成長」「給与・福利厚生」など、個人によってさまざまであることとを踏まえて、採用活動を進めていく必要があります。「人材の応募」「採用」「働き方」「自己成長」「業務効率」といった、人材が根付く好循環サイクルの中で、自社のネックがどこにあるのかを考え、人材がどういうプロセスで会社を志す必要があると考へていく必要があるとことでした。



井上洋市朗さん



**報告**  
男女共同参画セミナー  
働く女性が知っておきたい  
「職場のハラスメントとメンタルヘルス」

10月20日(月)と21日(火)に東京都労働相談情報センターとの共催で、弁護士の戸塚美砂さんを講師にお迎えし「男女共同参画セミナー」が開催されました。

1日目は「働く女性をめぐる職場のハラスメントの基礎知識と事例・判例」です。セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、マタニティハラスメントの歴史や定義などをお話いただきました。ハラスメントは男性から女性への行為と思われがちですが、女性から男性や同性同士、部下から上司でもハラスメントになり得るということです。

また、ハラスメントに関する義務や責任について、労働基準法や育児・介護休業法などの法律とその規定内容や民法と刑法の中で該当する可能性がある条文についてご説明いただきました。

2日目は「ハラスメントから働く女性のメンタルヘルスを守る」です。メンタルヘルスに関する法律(労働基準法、労働契約法等)や企業の責任と義務についてご説明いただきました。また、企業が行う予防と労働者が行う予防、悪化した時の対処法などを紹介いただきました。



戸塚美砂さん



## 報告 水曜イブニングトーク 第4回「明治座の歴史と 女性たちの活躍」

10月1日(水)、株式会社明治座の総務部長三田光政さんをお招きし水曜イブニングトークが開催されました。140年の歴史のなかで、いく度もの火災に見舞われながらも復興を遂げてきた明治座。明治26年、初代市川左團次が再建に乗り出したときのこけら落としは大入り満員で、そば札を袋に入れて配ったのが、今日の大入り袋の始まりだそう。時代を牽引する劇場としてシエークスピアの上演など、斬新な企画もしてきました。



三田光政さん



明治座は当時から切符売り場、売店、食堂と女性を起用しており、今ではプロデューサー、プロモーションと舞台を作る側にも女性が活躍されています。幅広いジャンルにかけた創造力と想像力を兼ね備えた女性の力こそ重要で、その作品は必ず話題性を呼びまします。原作者の了解、ライセンスの交渉、熱意を伝える能力は女性にうってつけで、プロデューサーや宣伝部の半数以上が女性で明治座の中枢を担っており、作る側も観る側も女性がとても煌めく劇場となっています。

区民事業協力スタッフ 村田進益

## 報告 男女共同参画助成事業 時代は追い風!「壁を乗り越え、 女性が開花する時代へ」

11月8日(土)、中央区女性ネットワーク主催による講演会が開催されました。講師のヒューマン・コミュニケーション研究所所長の渡邊嘉子さんから、自分らしい夢を実現するために、人生のさまざまな壁に負けない対策についてお話を伺いました。参加者からは、「勇気と元気をもらった」などの感想をいただきました。



渡邊嘉子さん



▲最後にみんなでシャンソンを合唱しました。

中央区女性ネットワーク会長 三田富貴子

## 報告 パネル展 女性に対する暴力をなくす運動

毎年11月12日から25日までは「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。これに伴い4会場(女性センター・中央区役所・日本橋区民センター・月島区民センター)で女性に対する暴力の根絶を呼びかける啓発パネル展を行いました。会場ではパープルリボンプロジェクトとして女性への暴力根絶を願う「パープルリボンの木」を来場者の皆さんで作りました。



女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

## 平成27年1月から3月の講座ご案内

申込・連絡先

女性センター「ブーケ21」内 総務部総務課女性施策推進係  
TEL 5543-0651 FAX 5543-0652 <http://www.city.chuo.lg.jp/>

講座名	日時	講師	内容	対象	区のおしらせ掲載号
男女共同参画講座 「わたしのリーダーシップ 発見セミナー」	1月21日(水) 1月28日(水) 午後6時30分から8時30分(全2回)	藤田 潮さん (and Cs 代表/文部 科学省認可生涯学習 開発財団認定マスタ ーコーチ)	リーダーとしての心構え・コミュニケーションの取り方などを学び、自分にあった「リーダー」のタイプを見つけていきます。	区内在住・在勤・在学の女性・30名(先着順)・無料	12月11日号
中央区イクメン講座 「パパもチャレンジ! 離乳食づくり」	2月7日(土) 午前10時30分から12時30分	藤井 遊子さん (中央区保健所健康 推進課管理栄養士)	離乳食の進め方を学び、生後12~18カ月頃の完了期の離乳食を調理します。初めての方でも、楽しくおいしく作ってみませんか。	区内在住で生後18カ月までの父親・16名(先着順)・参加費:200円	1月11日号
男女共同参画講座 「大介護時代の働き方~介護 と仕事の両立~」(仮)	2月7日(土) 午後2時から4時	村上 健太さん (株式会社ワークライフ バランス コンサルタント)	明日からできる介護への備えといち早く情報を知るヒント、介護と仕事を両立できる働き方のコツを学びます。	区内在住・在勤・在学者(優先)・その他関心のある方・30名(先着順)・無料	1月1日号
区民事業協力スタッフ企画講座 「語り伝える日本の暮らし と台所~伝統からみた日本の台 所と世界の台所~」(仮)	2月21日(土) 2月28日(土) 午後2時から4時	宮崎 玲子さん (一級建築士/日本 民族建築学会顧問)	日本の伝統からみた台所や講師自身が訪れた世界中の台所について、建築士兼主婦の目線でお話いただけます。(予定)	区内在住・在勤・在学者(優先)・その他関心のある方・50名(先着順)・無料	1月11日号
男女共同参画セミナー 「誰もが安心して働くために 知っておきたい職場のルール」 共催:東京都労働相談情報センター	2月23日(月) 2月24日(火) 午後6時30分から8時30分	園部 洋士さん (弁護士)	安心して働くために職場のルールである「就業規則」について分かりやすく解説します。 *1日のみの受講もできます。	勤労者、その他テーマに関心のある方・各回60名(先着順)・無料	1月11日号
ひなまつり ロビーコンサート	3月3日(火) 正午から午後1時	女性センター「ブーケ21」利用者団体 などが出演	女性ネットワーク会員及び女性センター利用者が演奏を披露するほか、雛祭りに合わせたさまざまな作品で1階ロビーを飾ります。	どなたでもご覧いただけます・無料	掲載なし
男女共同参画講座 「“おはよう”の言える朝を 迎えるために!~目覚めスッ キリ快眠講座~」(仮)	3月11日(水) 午後6時30分から8時30分	内海 裕子さん (スリープビュー ティアーアドバイザー)	「質」の良い睡眠やすっきり目覚めのための方法を学び、身体の調子を整え充実した生活を送っていきましょう!	区内在住・在勤・在学者(優先)・その他関心のある方・50名(先着順)・無料	2月11日号
女性のための再就労支援講座 「キャリア講座」	① 1月15日(木) ② 2月12日(木) 午前9時30分から12時30分	栗原 知女さん (キャリア・コンサル タント)	①「会社と職種の選び方」 ②「仕事のカンを取り戻すリハビリ」 *希望する講座のみの受講もできます。	結婚、出産・育児、介護等のため離職した方など、就職を希望する女性<キャリア講座> 各回50名(先着順)・無料	12月11日号 1月11日号
「キャリア相談」	① 1月22日(木) ② 1月29日(木) ③ 2月19日(木) ④ 2月26日(木) ⑤ 3月5日(木) 午前9時30分、10時、10時30分、11時(午前10時、10時30分は託児の方優先) 一人ひとりの状況に応じた個別相談をキャリア・コンサルタントが担当します。			各回1名(先着順)・無料	

託児 は定員あり

\*会場は男女共同参画セミナーのみ中央区役所、その他はすべて女性センター「ブーケ21」です。  
\*募集は広報紙「区のおしらせ中央」発行後です。詳しくは広報紙「区のおしらせ中央」をご覧ください。

「ブーケ21」では、1階にグランドピアノを設置しています。区主催の講座や講演会開催前に、参加者にくつろいでいただくため、ボランティアでピアノ演奏をしてくださる方を募集します。詳しくは女性センター「ブーケ21」までお問い合わせください。

T O P I C S



中央区男女共同参画 **リーダー研修 in 富岡製糸場**

10月15日(水)、平成26年度男女共同参画リーダー研修が行われました。第7回を迎える今年の訪問地は、この6月に世界遺産に登録されたばかりの「富岡製糸場」です。参加者は過去最多の33名、うち男性が6人とこちらも過去最多でした。

10月7日(火)の事前研修では(公社)日本観光振興協会常務理事・総合研究所長の丁野朗さん(たのらう)を講師にお迎えし「世界遺産・富岡製糸工場の魅力～日曜休日を最初に体験した女性たち～」についてお話いただきました。また10月29日(水)の事後研修では参加者同士で活発な意見交換をしました。



事前研修の講師、丁野朗さん



正面に富岡製糸場が見えます。れんがの壁面が目を引きまます。



解説員の金久保誠さんのお話に熱心に耳を傾けます。



操糸場内です。ここで繭から生糸を取る作業が行われていました。さまざまな工具が当時のまま残っています。



東倉庫です。2階で乾燥させた繭を保存していました。

解説員の金久保誠さんとの交流

インタビューと感想



解説員 金久保誠さん

- \* 富岡製糸場内社宅で生まれ育ち、現在82歳。11年前からボランティアとして活動している。「先祖の生き方に学ぶことが多いので、継承することや保存への努力をしてきた。見学者に出会え、話ができることが喜びである」と語られた。
- \* お父様が製糸場内で重要な仕事を成し遂げられていたことが何よりの誇りであり、お父様への尊敬の念と富岡製糸場への愛情がボランティアガイドを行うきっかけであったと思う。



西倉庫

グループ研修

学べたこと

◇富岡製糸場に関わりのある人々

- \* 尾高惇忠(富岡製糸場初代所長)……長年にわたって強固な壁面を形成しているれんがやモルタルを地元の職人に作らせた決断力と実行力はすごいと思う。自分の娘を工女第一号にし、周囲に大きな影響を与えた。
- \* 尾高勇(工女第一号)……工女のなり手がなかった当時、父親の意をくみ第一号の工女として入場。同郷の少女たちを刺激し、工女になる道を開いた彼女の勇気と決断には拍手。
- \* ポール・ブリュナ(設立の指導者)……西洋式の女性の働く環境や処遇は、当時の工女さんたちに誇りとやる気を起こさせた。

◇工女の生活

- \* 労働環境について……官営でフランス人指導者の下で女性が働く環境整備ができた。工場内に宿舍・食堂・風呂のほか診療所や入院施設があったことは先進的だった。また、日本産業構造の変化の中で1日8時間労働、毎週日曜日が休みとは画期的で恵まれていたように感じた。
- \* 工女について……工女は士族の娘さんだけでなく農民の娘さんもいた。職業婦人の草分けで、近代的な女性労働者が誕生した。読み、書き、ソロバン、和裁もそこで習得できたとのこと、ともしれば女性蔑視の中で生きてきた女性たちに、自立の機運が生まれる先駆けとなったと思う。また、お化粧品や香水を買いフランス仕込みで身だしなみを大切にされた。

◇建物や機械

- \* 建物の工法……れんがという西洋の新しい材料を取り入れながら、屋根は伝統的な日本瓦で葺くなど、日本と西洋の建築技術を見事に融合して建てられている。

館長 雑記

富岡製糸場の歲月

▶リーダー研修にご一緒して富岡製糸場を訪ねました。工場のほかに、倉庫や工女たちの住まい、指導者の住まいなど、一連の施設がそのまま残っていて、歳月の経過の中での保存の大変さと大切さを伝えていきます。▶売店で、ほしかった和田英の「富岡日記」をみつけ、さっそく買いました。30年以上も経ってからの回想ですから、記憶が美化されていたり記憶違いがあったりするのでしょうか。それでも、優等生的な言葉ばかりでなく、工女間の争いや日常の小さな喜びなども生き生きと語られています。まるで知り合いの友人のこのように当時の彼女たちの生活がイメージできました。▶国の近代化に資することの使命感や父母の教えに忠実であることが生活の基本に置かれているとしても、それ以上に、新しい技術に挑戦し、自分のものにする喜びが、その毎日を支えていたことがわかります。それこそ彼女たちの労働の原動力だったのだと、あらためて思い、うれしくなりました。(松川淳子)

女性センター「ブーケ21」へ来てみませんか？

「ブーケ21」は男女共同参画を推進し、一人ひとりが自分らしく生きることができる地域社会をめざす拠点施設です。女性、男性どなたでもお気軽にお越しください。

〒104-0043 東京都中央区湊一丁目1番1号  
電話番号 03-5543-0651  
ホームページ <http://bouquet21.genki365.net/>

◆開館時間 午前9時～午後9時(12月26日から1月4日までと臨時休館日を除く)

- 東京メトロ日比谷線・JR京葉線 八丁堀駅下車 A2・B3出口徒歩3分
- 都バス「東15」(深川車庫前⇄東京駅八重洲口/豊洲駅前・明石町経由) 鉄砲洲下車 徒歩3分
- 江ノバス「南循環」鉄砲洲下車 徒歩3分
- 入船三丁目下車 徒歩3分
- 「北循環」八丁堀駅下車 徒歩3分

